

令和4年4月18日（金）

- ③運動会
  - ・インドネシア体操
  - ・インドネシアのスポーツ、体を使った遊び
- ④外国語の発表の場
  - i. 中学部の生徒が英語で司会進行を行う。
  - ii. 児童生徒が授業で学習した内容や身についた力を使って、発表する。
  - iii. 英語の歌合唱

## 令和4年度 チカラソ日本人学校 國際理解教育

### 1 学校教育目標と国際理解教育

#### (1) 学校教育目標

「自立と共生の力を身につけ 日本と世界の未来を拓く 心豊かでたくましい子どもの育成」

- (2) 学校教育目標を國際理解教育の観点から実現するために、自立と共生の力を身に付け、日本と世界をつなぐ人材を育成するために、インドネシア語、英語を使って、実際に異文化を体験したり、教科を学んだりする機会を設定したい。例えば、家庭科で児童生徒がインドネシア語で現地の料理を作ったり、音楽科で世界の様々な音楽に慣れ親しんだりすることは、児童生徒にとって本物のコミュニケーションの機会となる。このような体験を通して、児童生徒が自国と他国の文化の違いを知ることで日本人としてのアインデンティティを確立することにもつながる。また、インドネシア語や英語で、自分の考え方や感じたことを伝えることは、他者や世界に発信する第一歩となる。国際理解教育の観点から、教育活動を行うことが、本校教育目標の達成に向けて、重要な役割を果たすとともに、国際社会で協働しながら生き抜いていくことが求められる日本人にとってその基礎をなすものだと考える。

### 2 具体的方策

#### (1) 各教科における取り組み

- ① 現地理解教育の観点から各教科で取り組むことができる内容
  - ・衣服 (バティック)
  - ・食文化
  - ・言語
  - ・民族
  - ・そのインドネシアの思想
  - ・イスラム文化の理解
  - ・道徳心、価値観の違い及び交流
  - ・スポーツ
  - ・祭り
  - ・遊び
  - ・建物
  - ・歴史
  - ・経済
  - ・伝統的楽器 (音楽)
  - ・自然

#### (2) 活動例

・英語 (中学) …英語でインドネシアの料理についてインタビュー

(2年 Unit 2 Food Travel around the World)

- ・社会…日本の歴史との比較、地理的違いと文化の違い
- ・理科…インドネシアの植物を使つた実験
- ・道徳…友情とは何か。インドネシア人と日本人が友になるには何が必要か。

#### (3) 今後の取組内容

- ・4月 現地理解の観点から取り組める教科を年間計画で考える。（小・中教科部会）
- ・4月 自己目標に取り組みを記入する。
- ・4月～12月 各教科における実践
- ・1～3月 実践の振り返り

#### (2) 國際理解教育と現地理解の観点をもつて行う特別活動（学校行事）

- ①修学旅行
  - ・インドネシア語、英語でインタビューし、総合のテーマに迫る。（総合とも関連）
  - ・インドネシアの美しい場所を写真に収め、展示会を行う。
  - ・ゲストティーチャーの活用（現地）
  - ・文化体験（音楽・民芸）
- ②CJSフェスティバル（日本・インドネシア 両文化の発表及び理解の機会にする）
  - ・インドネシア楽器の演奏（インドネシア語でいさつ）
  - ・日本の和太鼓の演奏
  - ・外国語劇

### ③運動会

- ・インドネシア体操
- ・インドネシアのスポーツ、体を使った遊び

### ④English Day

- i. 中学部の生徒が英語で司会進行を行う。
- ii. 児童生徒が授業で学習した内容や身についた力を使って、発表する。
- iii. 英語の歌合唱

### ⑤Language Board (外国語活動の掲示板)

- ア 担当：ALT及びインドネシア語教師
- イ 内容
  - ・異文化の紹介
  - ・生徒作品の紹介
  - ・活動の様子（写真）

### ⑥児童生徒の歌合唱

- (3) 外国語講師を活用したバイリンガル教育（インドネシア語・英語）
  - ① 対象：小3、小4、小5、小6、中学部
  - ② 教科と基本的な内容
    - ・家庭科、音楽、体育において年間3時間程度でミックスレッスンを組み込む。
    - ・インドネシア語教師とALTが教科に入り、指導を行う。言語使用を促すが、特定の言語材料を習得させるのではなく、あくまで教科の補佐として外国语講師が参加する。生徒が学習のために、外国语を使用することをねらいとする。

### ⑦今後の取組内容

- ① 対象：小3、小4、小5、小6、中学部
  - ・4月 年間計画の作成、及び外国语教師のスケジュールの調整（別紙計画）
  - ・4月～3月 実践
  - ・1月～3月 実践の振り返りと年間計画の修正

### ⑧児童生徒の歌合唱

#### ⑨児童生徒の歌合唱

外国语講師を活用したバイリンガル教育（インドネシア語・英語）別紙計画

1 対象：小3、小4、小5、小6、中学部

2 教科と基本的な内容

- ・インドネシア語教師とALTが教科に入り、指導を行。言語使用を促すが、特定の言語材料を習得させることではなく、あくまで教科の補佐として外国語講師が参加する。生徒が教科における学習のために、実際に外国語を使用することをねらいとする。

- ・対象学年の家庭科、音楽、体育において年間4単元（インドネシア語2・英語2）でバイリンガル授業を組み込む。

- ・まず本来の教科の授業の目標を達成することを目的とするが、外国语教師を活用しやすい単元を吟味し、計画する。

3 今後の取組内容

学年	教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小3	図工	イ											英
	音楽				英								
	体育												
小4	図工								イ				
	音楽	イ											英
	体育												
小5	家庭科	英								イ			
	音楽												英
	体育							イ					
小6	家庭科				イ						イ		
	音楽												英
	体育	英											
中学部	音楽							イ					
中学部	体育								英				イ
中1	家庭科												英
中2	家庭科												イ
中3	家庭科												

・4月～3月 実践（前期（イ1回、英1回）、後期（イ1回、英1回）

単元などの内容を確認して、自由に入れ替え可。

インドネシア語担当：木村、英語担当：木下と連携をしながらバイリンガル授業を計画する。

担任や各担当は授業に入り、写真等記録を残し、学級通信や学校便り等で紹介する。

・1月～3月 実践の振り返りと年間計画の修正